

青函圏交流

○青函圏交流・連携推進会議

青函圏（北海道渡島・檜山の道南圏と青森県）は、津軽海峡を挟み、古くから人や物の交流があった地域で、その交流の歴史は遠く縄文時代にまでさかのぼります。

昭和63年3月に青函トンネルが開通したのを一つの契機として、津軽海峡を挟む両地域では、産学官による「青函インターブロック交流圏構想推進協議会」が組織され、一層の交流・連携を図りながら圏域が一体となった経済文化圏の形成を目指してきました。

平成23年4月からは、東北新幹線の全線開業（平成22年12月）や、その後の北海道新幹線新青森～新函館北斗間の開通による更なる交流・連携が期待されることを受け、これまでの既存の団体に加え、交流・連携に取り組む団体に広く会員として参画いただき「青函圏交流・連携推進会議」として新たな活動を進めてきています。

○会議の活動

青函圏交流・連携推進会議では、様々な主体による多様な交流の拡大・連携強化を図り、青函圏が一体となった経済文化圏の形成を目指すための指針として、令和3年7月に「青函圏交流・連携ビジョン」を策定しました。

交流団体による活動事例の発表や会員からの情報提供の場を設けるとともに、フォーラム（講演会及びパネルディスカッション）を開催し、会員相互の交流・情報交換を促すことで青函圏交流・連携のプラットフォームとしての役割を担います。

○青函圏に関する総合情報の発信

青函圏交流・連携推進会議では、これまでの活動内容の紹介のほか、会員団体の交流・連携の取組に関する情報を集約し、ホームページ上に公開しています。

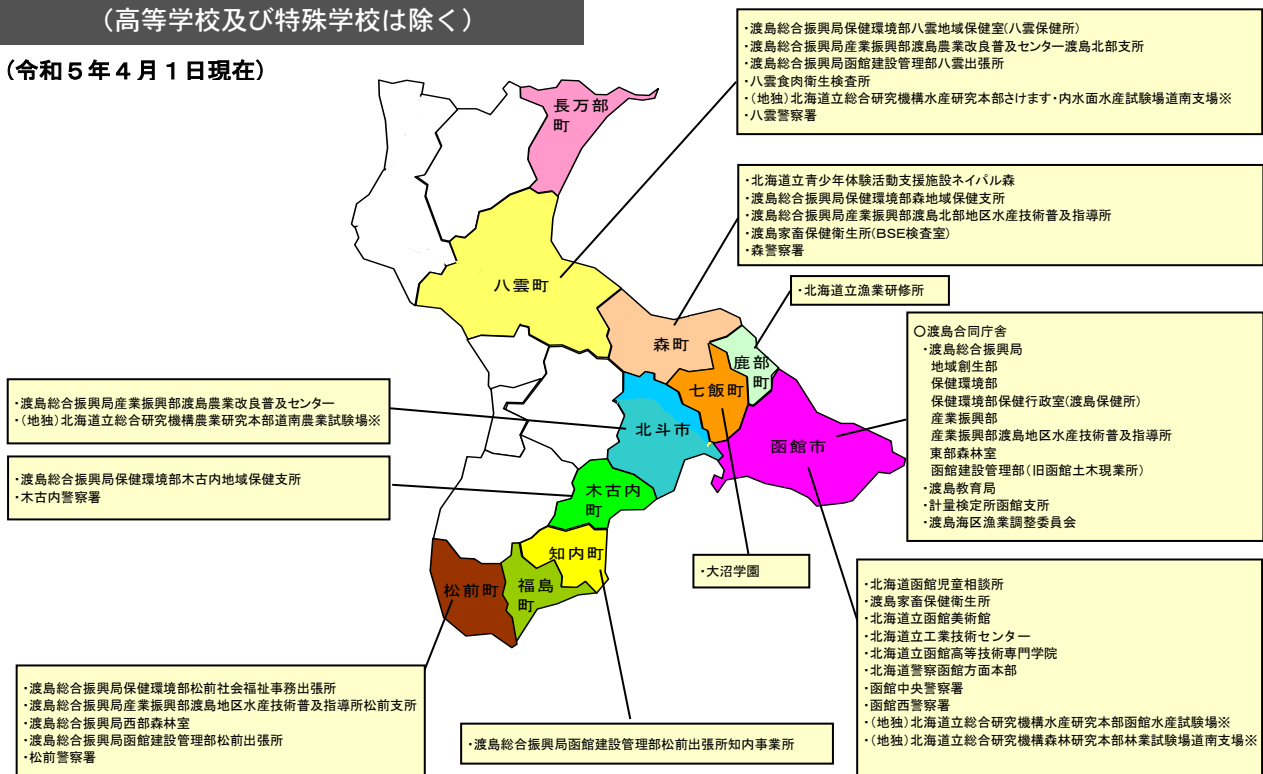
詳しくは【青函圏交流・連携推進会議ホームページ】

URL：<http://www.jomon.ne.jp/~seikan01/>

管内の道関係機関

（高等学校及び特殊学校は除く）

（令和5年4月1日現在）



※は地方独立行政法人